

# 津屋崎千軒新聞

## ¥0 第2号 夏

平成十九年七月

発行 津屋崎千軒 海とまちなみの会  
事務局連絡先 〒811-3304 福津市津屋崎369-14  
会長 吉村勝利  
E-mail: yosi3019@sage.ocn.ne.jp

今回の総力特集 昔の津屋崎海水浴場の話と写真  
○昔は海で水泳授業や運動会  
○天神町の浜にブランコがあった  
○浜では、貝がいっぱい取れた  
○本町や天神町は賑やかな街だった  
○津屋崎橋は開閉式だった！  
○波止場からイワシクジラ水揚げ

2面に昔の海の  
グラフ特集掲載

## 昔は海で水泳授業や運動会

### 福岡から渡の軍艦めぐり、折り返して天神町まで遠泳した

子供のころは、学校から海に泳ぎに行っていた。女の子は水着を着ていたが、男の子は黒いキンシリうちよだった。写真①。この授業に遠泳というのがある。高等科一年から二年の時、福岡の浜から渡(わたり)の首根の鼻にあつた軍艦の鼻に②に向かつて泳ぎ、折り返して天神町の海岸がゴールだった。この軍艦は、日露戦争(明治三八年)五月二七日、司令官の東郷平八郎元帥の率いる旧日本海軍連合艦隊が、世界最強のバルチック艦隊を日本海で撃破し、日本が勝利した。



①津屋崎海水浴場で楽しむ子ども達



②ロシアの軍艦

た)の時、ロシアの軍艦が首根の鼻の海に置いてあつた。砂浜では、津屋崎と福岡の子供たち合同の運動会が開催されていたし、競馬大会も行われていた。



③ぶらんこ

天神町の浜には、ぶらんこ。写真③。があり、乗って遊んだ。ぶらんこを大きく振って勢をつけ、そのまま海に飛び込んで泳いだ。(日本海海戦で日本が勝利した五月二七日の)「海軍記念日」には、水上飛行機が浜に降りよつた。写真④。津屋崎海岸の潮止め堤防。写真⑤。



④水上飛行機

は、新川の所から中川の方まであつた。天神町の所は、コンクリートの堤防が高く、堤防の上から浜に飛び降りて遊んだ。

## 天神町の浜にブランコがあった

### 水上飛行機が降りたことも

### ◆浜では、貝がいっぱい取れた◆

昔は、津屋崎の浜や内海(うちうみ)に「津屋崎干潟」で、貝がいっぱい取れた。小さなナミセンガイ(津屋崎では「マメガイ」とも言う。ナミノコガイ)は、歯でかんだら甘くて、身を釣りの餌にした。マテガイより大きく長いコクラマテ(オオマテガイ)は、東町の沖合にあつた。「一文字波止」の方において、取るのが難しかった。コクラマテの取り方は、いそうな砂浜をまず後ろ向きに歩き、足の裏に触つたから逃げ方が早いので、くわで急いで取つた。また、中川のほとりには、両手の親指と人差し指をつなげた三角形くらいの大きなハマガリがいて、三銭で旅館が買つてくれたが、今はもういない。

### ◆本町や天神町は賑やかな街だった◆

昔の津屋崎は、塩田があつたから栄え、内海には大きな船があつた。石屋さんは十軒もあり、石塔の墓を持つことがステイタスだった。みんな貧しかったけど、昔は良かった。本町通りは街やつた。遊郭もあつた。

## 開閉式だった津屋崎橋

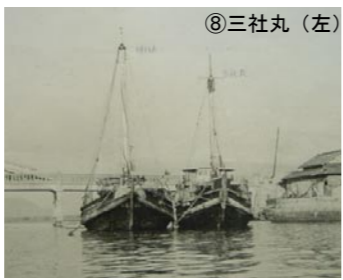
内海に架かる橋は「津屋崎橋」となつているが、みんな「渡(わたり)」と呼んでいたり。昔は、内海に船が入れるように真ん中が開閉式になつた。跳ね橋。写真⑥。で、おじいさんが手で操作して橋を上げよつた。橋が降りている時でも、そのつなぎ目は少し開いて、すき間から海が見えたので、子供の時は渡るのがちよつと怖



⑥開閉式の「渡橋(津屋崎橋)」

## ◆波止場からイワシクジラ水揚げ◆

渡の農家が、津屋崎の田んぼに行く時は、内海の半分ぐらゐ奥の一番狭い所を伝馬船に牛も載せて渡つていた。津屋崎漁港の波止場。写真⑦。からは、イワシクジラをよる揚げとつた。この写真に映つるとる船が、私が乗つていた「三社丸(さんじゃまる)」。写真⑧。たい。津屋崎漁港の渡側には(魚を放流した)「活け洲場」があつた。



⑦津屋崎漁港



⑧三社丸(左)

## ◆昭和十年創業の旅館「正直亭」◆

かつて、白砂青松とうたわれた津屋崎の海辺に創立された旅館の一つに正直亭。写真⑨。があります。現在営業なさつていないのは、三代目竜口直幸さんです。創業は昭和十年で竜口幸次郎氏が新鮮な海の幸を多くの人に味わつて貰おうと開業。当時は三階建ての建物がいっぱい満員でした。その後、昭和五十年頃をピークに客が減り、海辺の旅館等は数少ない営業となりました。平成十年に新装された建物の大浴場から青々と広がる海を見ながらゆつたりと心身共に安らいで頂けたらと思います。



■津屋崎千軒 海とまちなみの会からのお知らせ

### ◆参加者募集

福津市・津屋崎千軒の活性化を図る住民団体、「津屋崎千軒海とまちなみの会」は、九月四日から二五日までの毎週火曜日(四回)に「ボランティアガイド養成講座」を開催します。

### ◆津屋崎千軒 海とまちなみの会

会費 千円(年会費千円) 申し込みは、会長 吉村勝利 (〒811-3304 福津市津屋崎三六九-1) 電話 三三六九-1144 電話 三三六九-1144 E-mail: yos3019@sage.ocn.ne.jp

## ◆懐かし津屋崎の海水浴 座談会◆



昔の津屋崎の海水浴場。写真⑩。を六月五日、「津屋崎千軒民俗館『藍の家』」に集まつた。座談会を開きました。写真⑪。大正七年〜十四年生まれの人たち。

座談会に出席の皆さん(敬称略、五十音順)。  
▽入江静子(大正七年生、五反田)▽占部正枝(大正十二年生、岡の三)▽大浜茂(大正十四年生、浜の町)▽大浜秀吉(大正十四年生、新東区)▽津崎米夫(大正十三年生、新東区)▽中村キク(大正十一年生、北本町)▽西住マサ子(大正十四年生、天神町)。

※津屋崎をもっと知りたい方はブログ「津屋崎センゲン」をご覧ください。検索サイトで見つけるか、<http://blog.goo.ne.jp/magpie03>まで。

知ってください、ぜひ来て下さい津屋崎に。お待ちしております！